

平成 28 年度 市長と語る会 概要報告

1 開催概要

(1) 開催日時、場所、参加人数等

地区	開催日時	開催場所	参加人数
稲梓地区	平成 28 年 10 月 17 日(月) 午後 7 時～午後 8 時 52 分	基幹集落センター	93 人
浜崎地区	平成 28 年 10 月 27 日(木) 午後 7 時～午後 8 時 37 分	須崎漁民会館	50 人
下田地区	平成 28 年 10 月 28 日(金) 午後 7 時～午後 8 時 36 分	市民文化会館	73 人
稻生沢地区	平成 28 年 11 月 4 日(金) 午後 7 時～午後 9 時	稻生沢公民館	77 人
朝日地区	平成 28 年 11 月 8 日(火) 午後 7 時～午後 8 時 30 分	朝日公民館	43 人
白浜地区	平成 28 年 11 月 10 日(木) 午後 7 時～午後 8 時 40 分	白浜公民館	53 人

2 出席者及び次第

(1) 出席者

市長、副市長、教育長、総務課長、企画財政課長、地域防災課長、学校教育課長、建設課長、産業振興課長、観光交流課長、環境対策課長

(2) 次第

- ① 学校再編について
- ② 新庁舎について
- ③ 地域の諸課題について

3 質疑及び回答内容

地区別に質問内容及び回答を次のとおり、要約。ただし、学校再編にかかる部分のみを抜粋して資料を作成。

(1) 稲梓地区

Q 1	学校再編の期限は。
A 1	予定では平成 33 年以降。期限は定めていない。
Q 2	学校再編のデメリットはどういう意見があるか。
A 2	目が行き届かなくなる恐れや地域交流地点が消滅するという意見がある。
Q 3	通学費は。
A 3	現状、6 km 以上の生徒は半額補助。再編後どこまで補助するのか決まっていない。
Q 4	半額補助になると稲梓の保護者負担はどのくらいか。
A 4	市の財政全体で試算しているため、稲梓からいくらかは不明。今後検討する。
Q 5	通学費の問題は義務教育なのだから 0 にしてほしい。
A 5	保護者からも通学費の意見が多く検討会議にて検討中。保護者の負担軽減で検討。
Q 6	10 月 13 日付け静岡新聞に検討会議が載っていた。メンバー 35 名。諮問を受ける側の教育長がなぜ会長なのか。

A 6	検討会議は諮問機関ではなく、聞く場。責任者として取りまとめている。
Q 7	校内暴力は今も行われているのか。
A 7	今は、4校とも落ち着いており、校内暴力はない。
Q 8	4校を1校にすると3校の建物、敷地等の跡地利用は並行して考えているのか。
A 8	子供たちの学習環境を良くするというので考えており、廃校後の跡地利用は考えていない。
Q 9	稲生沢中学校に統合ならば稲梓の子は自転車を使う。通学路整備も一緒に検討しているか。
A 9	国道414の整備要望を県知事へ行っており、特に、落合～浄水場の上までの道が狭くて暗く、優先して整備してほしい旨、伝えている。
Q 10	稲梓は奥が深く、家から稲梓小まで7kmある子もいる。1校になると先生が半分以下で手が行き届かなくなり、子供のケアをどうするかが課題。統合でなく特区や小・中学校コースという手は。
A 10	通学費、通学方法は検討する。1校となればスクールカウンセラー等を常駐でき、子供の悩みに対応でき、先生の数は減るが、支援員で代替可能。専門の免許を持った先生による指導ができ、各教科の先生を配置できる。
Q 11	1校になると稲作体験等が行えず、文化、伝統継承が難しくなり、地域性が失われてしまうのでは。教員数少ないが、実際に教科免許なく教えている先生もいるのか。
A 11	免許外申請をして免許を持ってない先生も授業をしている。地域の体験学習は1校になった場合、稲梓の子が海の体験ができ、白浜の子が山の体験もできるというメリットもある。
Q 12	合併も想定すべき。縦貫道もでき、学校統合後、稲梓中跡地に庁舎建てるべき。
A 12	合併の話はなく、賀茂地区で広域連携、一部事務組合といった組織を作り、協力する状況。
Q 13	稲梓小・中は避難所だが、稲梓小へ坂を上ると側溝が深さ50cm程あり、車がすれ違えない。
A 13	稲梓小の坂は危険だと感じている。坂を直す予算を取る。

(2) 浜崎地区

Q 1	再編した場合、白浜・外浦・須崎等はバス通学になる。通学費の支援を具体的に父兄に提示して理解を得るべき。現在6km超は半額だが、向こう3年は全額補助とし、3～5年経過後、応分に負担していくような案としていけば理解を得やすいのでは。
A 1	東中は生徒92人のうち、6km超で通学補助を受けている生徒50人、年間金額209万円。単純に年間41,800円負担。東中の生徒が稲生沢中に通った場合、79,400円、下中67,100円。今の制度では負担が増える。これら数字をもとに保護者負担がかからないよう検討する。
Q 2	東大生がたくさん出るような教育をしてほしい。金の問題でなく、教育は財政の根本と考える。
A 2	先生の充実、教育機器の充実により先端教育を進め、夢を持てば可能性を追求していく。
Q 3	未就学、中学校と再編を進めているが、小学校の再編の方向性は。
A 3	答申をもとに小学校は複式学級になった時に再編を考える。今のところ今後10年複式はない。
Q 4	地元は学校が無くなった後を心配。東中が無くなった後の良い方向を示してほしい。
A 4	校区の説明会でも同意見あり。現在、2校のどちらにするかを検討中。どちらかを決めてから、跡地利用について決めていく。
Q 5	1校化してどんな人を作るのか。今年の中体連で下中と東中がバレーで県大会へ出た。多人数で切磋琢磨もよいが、対抗することで伸びるという考えも必要。
A 5	1校化となれば、下田がふるさと、下田を誇れる考えを持つ人間を育てられる。部活では少人数でバレーのない学校もある。1校化して大きくなれば東部・県大会を目指すことができる。
Q 6	時間もなく、浸水域外の場所で早めに決め、応分な予算で建設してほしい。議会が氷見を視察し学校を活用した庁舎で18億円削減したという話を聞いた。空き中学校の活用もありでは。
A 6	跡地利用は考えているが、再編はH33以降のため遅くなる。コストを減らす策として、緊急防災減災事業債の活用等検討。学校と事務のための建物の強度の基準が異なり、氷見の事例は体育館を活用し、校舎は倉庫的な利用になっている。改築も相当な出費。

(3) 下田地区

Q 1	下小・朝日小は津波浸水域。中学校だけでなく、小学校も考えては。
A 1	小学校は複式学級になるまで再編しない予定。下小は春日山に逃げるよう整備中、朝日小は広域避難場所を大賀茂小へ変更し、多景山を整備した。
Q 2	時期・見通しは。
A 2	H33 年度以降を考えている。今後、幼稚園、こども園、保育所でも説明会を行う。
Q 3	春日山の避難路、歴史を学ぶにはいい場所。普段鍵がかかって入れない避難場所もあり、遊べる場所として、有効活用してほしい。
A 3	現在、工事中につき立ち入れないが、工事後、遊歩道として利用予定。
Q 4	石丁場跡がある。工事で遺産を壊したりするのはやめてほしい。
A 4	石丁場はすでに崩落している箇所もあり、遊歩道から石丁場を見えるよう整備している。
Q 5	人口減少の中、将来に何が残せるか併せて検討してほしい。
A 5	クラス替えもままならない。小・中同じ仲間で勉強するといった意味での競争が生まれない。昨年度まち・ひと・しごと創成総合戦略を開始し、乳幼児医療の無料化、企業誘致の固定資産税の優遇税制を始めた。
Q 6	【新庁舎議題のなかで】 学校再編で学校が空く。そのどこかに建てれば一石二鳥。
A 6	学校再編は H33 年度以降。校舎を庁舎にした市を視察したが、建築基準の違いもあり難しい。

(4) 稲生沢地区

Q 1	人口減少は仕方ないが減らさない努力はしているか。1 校化後、空き校舎、体育館、グラウンドの活用は。透明性を持ってほしい。
A 1	審議会の答申は将来、1 校を見据えて 2 校に統合だが、統合に時間がかかるため、効率化を図り 1 校とした。利活用に対して今後検討する。中学区を中心に説明会を開いている。
Q 3	1 校だと転校もできずいじめが続き、子どものことを考えた行為ではないのでは。不登校数は。
A 3	今年度 4～9 月の時点で中学生が 10 名、小学生が 3 名。
Q 4	統合されたらいじめが増えるのでは。
A 4	スクールカウンセラーやソーシャルワーカーがいる。いじめは学校規模の影響はあまりない。
Q 5	子供達を合併前に交流させるのが大事。跡地について地域活用できる場所を作ってほしい。
A 5	現在では部活動の場などにおいても交流ができる。跡地利用は今後検討する。
Q 6	中学 1 校となるとバスの本数も少なく、徒歩となる生徒について考えているか。
A 6	バスの本数を増やしていただくようバス会社との交渉やスクールバスも検討する。
Q 7	総合教育会議が示した 1 校化に際し保護者の負担は。0 円にならないと話ばまとまらない。
A 7	これ以上父兄に負担をかけないよう、スクールバスの運行などを考えている。
Q 8	【新庁舎議題のなかで】 中学校を庁舎とすることは。
A 8	可能だが、H33 年度以降になる。氷見市は校舎跡地を市庁舎にしているが、校舎自体の強度が市庁舎の基準に満たず、体育館を庁舎としており、非常に手狭。
Q 10	【新庁舎議題のなかで】 合併を視野に入れば庁舎はしばらく建設するべきではないのでは。中学校の再利用が良い。学校統合ももっと前倒しできるのでは。
A 10	合併は難しい。耐用年数の関係ですぐ建て替えなければならない、コストをかけずに進める。

(5) 朝日地区

Q 1	審議会では1段階目は2校、2段階目で1校という答申。デメリットも考えてほしい。
A 1	東中2、3年後には単学級が見込まれ、二度手間で保護者に負担をかけることも想定され、総合教育会議では1校化で進めるのが望ましいという結論になり、各地で説明会を行っている。
Q 2	総合教育会議のメンバーは。
A 2	教育長、教育委員4名、市長の6名。
Q 3	審議会の答申を大事にするという意見はなかったのか。
A 3	5年後に4校から2校に、さらに5年後には2校から1校になるならば、1校化を進めた方が良いのではという方向性になった。

(6) 白浜地区

Q 1	先生が20人程度に減り、1人当たりの生徒数が13人から26人に増える。教育・生徒指導が行き届かなくなるのでは。部活は少人数で練習量が多く、近所の先輩方から応援を受けられる現状が、1校化により練習量も減り、応援も受けられなくなるのでは。通学も子どもの健康上の負担や、家庭の経済的・精神的な負担も増え、問題があるのでは。
A 1	1校化すると先生32人体制となるが、全教科の配置が受けられ、先生が減っても指導の充実を得ることは可能。部活は各学校選択肢も少なく、部員数・指導者不足で活動できない部もあるが、1校化すれば活動が可能、部の選択肢も増える。通学は白浜地区6km以上の制限なく通学補助を受けている。保護者に負担をかけないよう検討する。
Q 2	【新庁舎議題のなかで】 新庁舎は費用面を1番に考え、人口減で学校跡地利用等、有効な資源を活用してほしい。
A 2	既存施設の活用は検討すべきだが、学校再編はH33年度以降、時間がかかりすぎる。